

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 9 月 30 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	佐藤 侑太郎

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
日本、愛知県、京都大学霊長類研究所
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
比較認知科学実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 9 月 4 日 ~ 平成 29 年 9 月 6 日 (3 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学高等教育院 松沢哲郎 特別教授 京都大学霊長類研究所 友永雅己 教授、足立幾磨 准教授、服部裕子 特定助教
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<b>目的</b> 霊長類研究所によって行われているチンパンジー・ウマを対象とした認知実験を見学することで、比較認知科学研究に関する理解を深めること
<b>所感</b> 3日間を通じて、霊長類研究所の学生・先生方のチンパンジーを対象とした認知実験を見学することができた(図1)。複数の学生と実験補助員とが連携しながら実験を進める様子が印象的であった。霊長類「研究所」という名の通り、研究者による研究が日常の中心に組み込まれているという印象を受けた。 霊長類研究所のチンパンジーは、日々様々な実験に、異なる実験ブースで参加する。さらに、実験の実施時間は、野生下での彼らの採食活動を念頭に入れて決められている。このように、研究だけでなく福祉の側面も十分考慮されているとのことであった。認知実験と福祉の関係には私自身興味があり、大変勉強になった。 また、ウマによる認知実験の様子も見ることができた(図2)。これらの実験は、霊長類研究所の近くにある乗馬クラブで行われている。タッチパネルの大きさや高さ、それを支える台などには、円滑に実験を進めるための工夫に満ちており、興味深かった。このような工夫は、今後タッチパネルを用いた実験の対象を広げていくうえで肝要であるだろう。 さらに実験以外にも、チンパンジーに麻酔をかけ健康診断を行う様子を見学した。獣医や教員が連携しながらてきぱきと仕事をこなす様子を間近に見ることができた。 私が霊長類研究所を訪れるのは、学部生3年次に参加したオープンキャンパス、4月に参加したインターラボ・ツアーに続いて3度目であったが、霊長類研究所に関してより深く知ることができた。特に今回は、私が現在活動している熊本サンクチュアリとの違いを実感する場面も多かった。国内外を問わず、他の大型類人猿研究施設やサンクチュアリも見学し、より視野を広めた

いと思った。

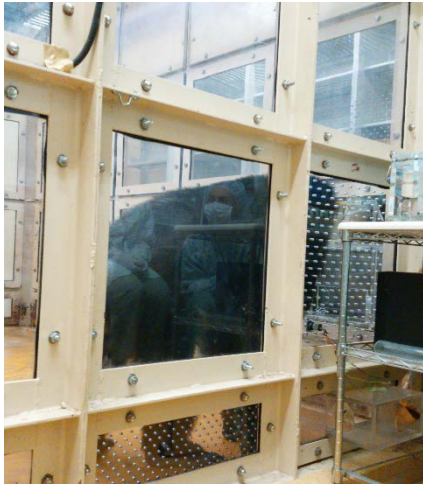


図1. チンパンジーを対象とした認知実験の風景。音源定位に関する実験に参加している。



図2. ウマを対象とした認知実験の様子。チンパンジーは手指でパネルをタッチするが、ウマは鼻面でタッチする。

#### 6. その他（特記事項など）

京都大学高等教育院 松沢哲郎 教授、京都大学 友永雅己 教授、足立幾磨 准教授、服部裕子 特定助教に感謝申し上げます。また、実験を見せてくださった学生のみなさま、実験補助員のみなさま、検診の様子を見学させていただいた獣医のみなさまに感謝申し上げます。